

同志社中学校 (京都府京都市)

中 私

学級編制 (H30.4.2 現在)

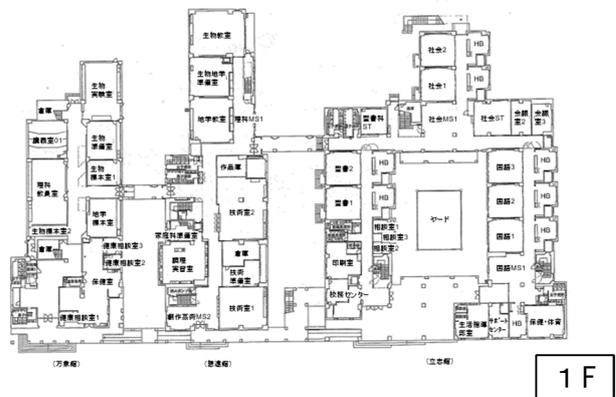
1 年	2 年	3 年	計
8 学級	8 学級	8 学級	24 学級
292 名	293 名	293 名	878 名

職員数 (H30.4.2 現在)

副校長	教頭	専任教員	嘱託講師	嘱託司書 教諭	専任職員	契約職員	計
1 名	1 名	39 名 ※左記 2 名含む	34 名	1 名	4 名	3 名	81 名

校地敷地面積 97,893 m² / 校舎延べ床面積 25,378 m² (小・中・高等学校含む) / 平成 22 年築
構造・規模 RC 造 3 階建 (体育館のみ S 造 1 階建)

平面図 / 配置図



▲教科教室 (数学)。



▲教科教室ごとに棚を介して HB (ホームページ) を設置。棚には教科関連書籍や資料を配置。



▲HB (ホームページ)。生徒用個人ロッカーと机イスを設置。

委員コメント

- ・ 小学校から高校までが一つのキャンパスに配置され、モールと呼ばれる動線の主軸を中心として、学校種ごとに整然とゾーニングされている。外観は歴史的で統一感がある。
- ・ 全教室に無線 LAN が整備され、どの教室でも I C Tを活用した授業ができる。タブレット端末は各家庭が購入し持ち込んでおり、学校の方針に沿った使用ソフト、インターネット閲覧範囲で運用を行っている。
- ・ ラーニング・コモンズを整備し、可動式家具、モニター、プロジェクター等によって、I C Tを活用した多様な学習が可能となっている。
- ・ 教科の特質や雰囲気を生かした教科センターづくりが実践されており、それぞれの教科のメディアスペースにて、教材や作品の展示・掲示が積極的になされている。
- ・ 教科教室性を生かし、効果的な学習環境を維持することが可能となるような指導体制、運営体制が構築されている。
- ・ スペースに余裕のあるアクティブラーニング教室を新設し、可動式家具、プレゼン用機器等を整備することによって、多様な学習活動が可能となっている。
- ・ 技術室は、英国の Design Technology の教室のように、多様な工具、器具が用意されており、創造的にものづくりができる学習環境となっている。



▲ 数学 MS（メディアスペース）にある模型展示。担当教員が教科に関連した空間づくりを行う。



▲ 図書室。幅広の通路を設け、いつでも生徒が通り抜けできるようにしている。



▲ 図書室内の閲覧コーナー。全てのテーブルに電源タップを設置。



▲ ラーニング・コモンズ。教室の四方にモニターを設置。テーブルごとに少人数での学習が可能。



▲ 学内に設置された電光掲示板。当日の予定、時間割、イベント案内などを表示。



▲ 美術室前の廊下。担当教員が思い思いの展示をつくっている。



▲ 音楽 MS。担当教員が自ら考え、特色のあるスペースをつくっている。



▲ 自然科学棟には至る所に昔の器具・道具類などを置き、生徒が実際に見て触れながら仕組みを学べるようにしている。



▲ チャペル棟にある小ホール。礼拝や行事など高校と調整しながら多目的ホールとして利用（定員400名）。

学級編制 (H30.5.1 現在)

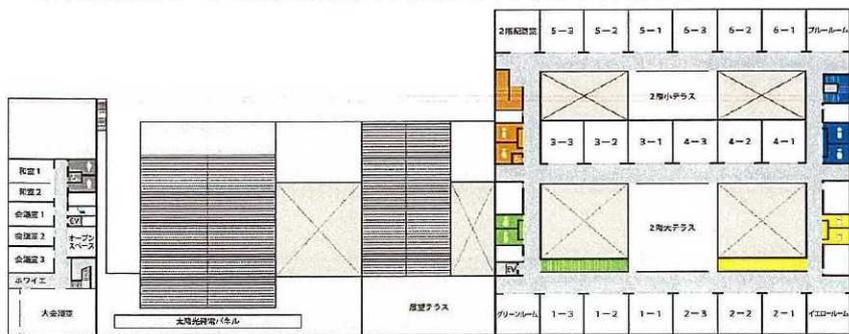
1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特別支援	計
3 学級	3 学級	3 学級	3 学級	2 学級	3 学級	3 学級	21 学級
81 名	85 名	89 名	72 名	69 名	78 名	18 名	492 名

職員数 (H30.5.1 現在)

校長	教頭	教務主任	教員	生徒指導・ 教育相談	通級指導・ 専科指導	養護教諭	その他 支援員等	計
1 名	1 名	1 名	17 名	各 1 名	各 1 名	1 名	14 名	39 名

敷地面積 25,600 m² / 延べ床面積 8,810 m² / 平成 28 年築
構造・規模 RC 造 2 階建

平面図



▲ 2 階は普通教室群。オープン型の教室が学年ごとにゾーン分けされている。



▲ 広々とした廊下は、場面によって扉を開閉して柔軟に利用。



▲ 昇降口の目の前にはメディアセンターが位置している。大階段で 2 階の教室群につながる。

委員コメント

- ・避難施設として段階的に開放可能なゾーニングとなっている。1階に特別教室をまとめているため、地域開放も段階的に可能。2階にまとめられた教室群は、学年を超えた交流を生み出している。
- ・2階は廊下を含めた全館空調であるため、夏や冬でも扉を開けて授業をしやすい
- ・学年の3CRに対して1CR分の多目的室が用意されており、柔軟に利用されている。
- ・多目的ホールは、多様に間仕切りが可能で、展示会場や健康診断の検診スペースとして可動間仕切りが利用されている。
- ・小学校、学童施設、コミュニティセンターの複合化が、それぞれの関係者が参画の下で、計画・実施された。体制などソフト面の整備も伴っている。
- ・校内にあるサインやアートワークは、ワークショップへの児童の参加を経て計画されており、特徴のあるものとなっている。
- ・校庭を芝生化することで児童が屋外での活動を活発に行っている。グラウンドは地域のボランティアの協力を得ながら、年間60万のコストで管理されている。
- ・地域の避難所としても計画されており、設営の訓練を児童と行うなど、防災教育に反映されている。

施設計画／管理運営

- ・地元住民で構成された「桐原コミュニティエリア推進委員会」を設置され、望まれる施設整備の検討や意見集約等を進められた。



▲メディアセンター。奥にはPCルームがあり一体的に使用可能。



▲共同学習室。図工・書写室と理科室の間に設置され、授業内容に合わせて様々な授業に利用。



▲多目的ホール。通路を介して音楽室につながる。全ての扉を開放して音楽室と一体的に使用可能。



▲多目的室。可動パネルで自由に空間を区切ることができる。



▲校庭に面した職員室。



▲職員室に隣接する教員のためのラウンジ。校庭に面しているため児童の様子もわかる。



▲ふれあいテラス。このほか床の材質やベンチの形が異なった中庭を3つ持つ。



▲併設したコミュニティセンター。



▲全面天然芝の校庭。

糸魚川市立糸魚川小学校 ひすいの里総合学校（新潟県糸魚川市）

小 特 公

学級編制(H31.3 現在)

糸魚川小学校

1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特殊	計
3 学級	3 学級	2 学級	2 学級	3 学級	2 学級	5 学級	20 学級
67 名	74 名	86 名	80 名	79 名	68 名		443 名

ひすいの里総合学校（小学部）

1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	重複	計
1 学級	1 学級	-	1 学級	1 学級	-	1 学級	5 学級
2 名	4 名	1 名	2 名	2 名		3 名	14 名

ひすいの里総合学校（中学部）

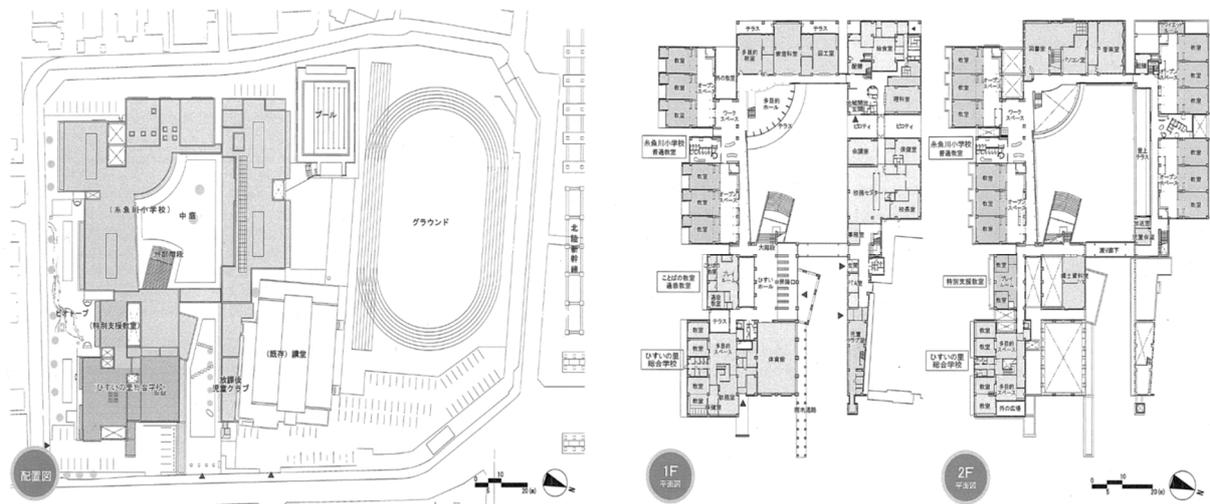
1 年	2 年	3 年	重複	計
1 学級	1 学級	1 学級	1 学級	3 学級
2 名	3 名	2 名	2 名	9 名

教職員数（H31.3 現在）

糸魚川小学校	ひすいの里総合学校	計
52 名	24 名	76 名

敷地面積 26,329 m² / 延べ床面積 9,166 m² / 平成 26 年築
構造・規模 RC 造（一部 S 造）地上 2 階建

平面図／配置図



委員コメント

- ・小学校と特別支援学校の合築であり、双方の独立性を維持しながらも一体感のある設計になっている。
- ・オープンスペースの形態でありながら、各教室との間に児童のロッカー・カバン入れがあり、学級ごとの独立性を保つことができています。
- ・回廊式の間取りとなっておりかつ廊下は一直線とは限らず、学年間に洗面所も配置することで各学年の独立性も保たれている。
- ・外壁に鉄道車庫を模した煉瓦が使用されており、デザインとともに地域の象徴となっている。
- ・余裕のある敷地にひすいホール、多目的ホール、図書館、外部大階段など多様に使える空間が設けられ、地域の活動も含めた様々な活動が展開できる。
- ・小学校、特別支援学校だけでなく放課後児童クラブや放課後デイサービスなど教育分野と合わせて福祉分野の施設が複合されており、利用者にとっては利用しやすい。各分野が連携協力しやすい姿勢になっていると思われる。
- ・児童の昇降口から小学校（普通学級、特別支援学級、通級学級）と特別支援学校が一緒に使うようになっており、自然な形で交流できる環境にあり、インクルーシブ教育が推進しやすい環境となっている。



▲普通教室はロッカースペースをはさんでオープンスタイル。



▲教室前の広々としたオープンスペース。学年ごとの集会も可能。



▲図書室。パソコン室と隣接してアナログ+デジタルの調べ学習が可能。



▲小学校と総合学校の交流の場となるアプローチと昇降口。同じ動線・出入口を使用して登校する。インクルーシブ教育の基本姿勢は「つかず離れず」とのこと。



▲体育館（小学校）。



▲整然とまとまった校務センター。書棚スペースを分離することで、非常にすっきりとした印象。



▲小体育館（総合学校）。

学級編制（H30.4.2 現在）

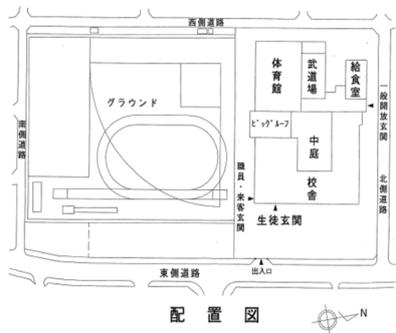
1 年	2 年	3 年	特別支援学級	計
4 学級	4 学級	4 学級	2 学級	14 学級
123 名	108 名	135 名	8 名	374 名

職員数（H30.4.2 現在）

校長	教頭	教諭	その他職員	計
1 名	1 名	21 名	6 名	29 名

敷地面積 34,030 m²／延べ床面積 10,959 m²／平成 20 年築
 構造・規模 R C 造（一部 S 造）地上 3 階建 SRC 造 2 階（体育館）

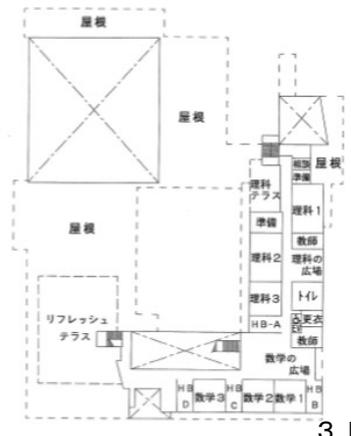
平面図／配置図



1F



2 F



3 F



▲吹き抜けのホールを抜ける大階段。



▲中庭。



▲教科教室。

委員コメント

- ・ 1階から3階へ続く吹き抜けは、生徒の交流が見える空間となっている。また、教科教室型での教室間の移動を容易にしている。
- ・ 南向きにこだわらず、廊下と教科の広場、教室を一体化させた設計になっている。
- ・ 木質感のあるデザインであるが、材料の色・素材・材の太さなどを空間の特性によって変え、単調ではない、「その場を高める」デザインとなっている。
- ・ 校舎は、いわゆる「教科センター方式」の典型的なつくりであり、教科教室に接続したホームベース、教科メディアスペース、教師コーナーを備えた空間構成は、教科指導の充実という点で大きな効果が期待できる。また、予備の教室も配置されており、多少の学級増にも対応できる柔軟性がある。
- ・ 計画の最中に中越地震が発生したため、防災拠点としての機能を高度に備えた計画がなされており、避難場所として備蓄倉庫のほか、水、ガス等の供給についても対策がとられており、全国でもモデル的な学校施設といえる。外部と体育館アリーナの関係、学校専用空間と地域住民利用空間のゾーニングも明確で優れている。

施設計画／管理運営

- ・ 教科教室型の当初の懸念であった教室移動は、休憩時間を長くとる等運用上の工夫で解決出来ている。ただ、特別な支援を要する生徒や忘れ物への対応は少し難しい。
- ・ 学級のまとまりについて、行事等で学級のつながりを意識することで問題はない。



▲教室（2～3）と各教科の広場、ホームベースを1単位として、教科ごとにゾーン分けがなされており、用途や目的に合わせた様々な使用が可能となっている。



▲各クラス単位のホームベース。



▲教師コーナー。各教科ゾーンに設置。



▲災害時の利用も考慮し、余裕をもたせた保健室。ビッグルーフを介して体育館と接する。



▲屋根付き広場「ビッグルーフ」。雨天時の運動の場、非常時の荷受け場等として多目的に使用可能な半屋外空間。



▲体育館。避難所と武道場を合わせて1,000人の収容を見込む。



▲多目的トイレ。



▲体育館に隣接して設置された受水槽。直接採水も可能。

学級編制 (H30.4.2 現在)

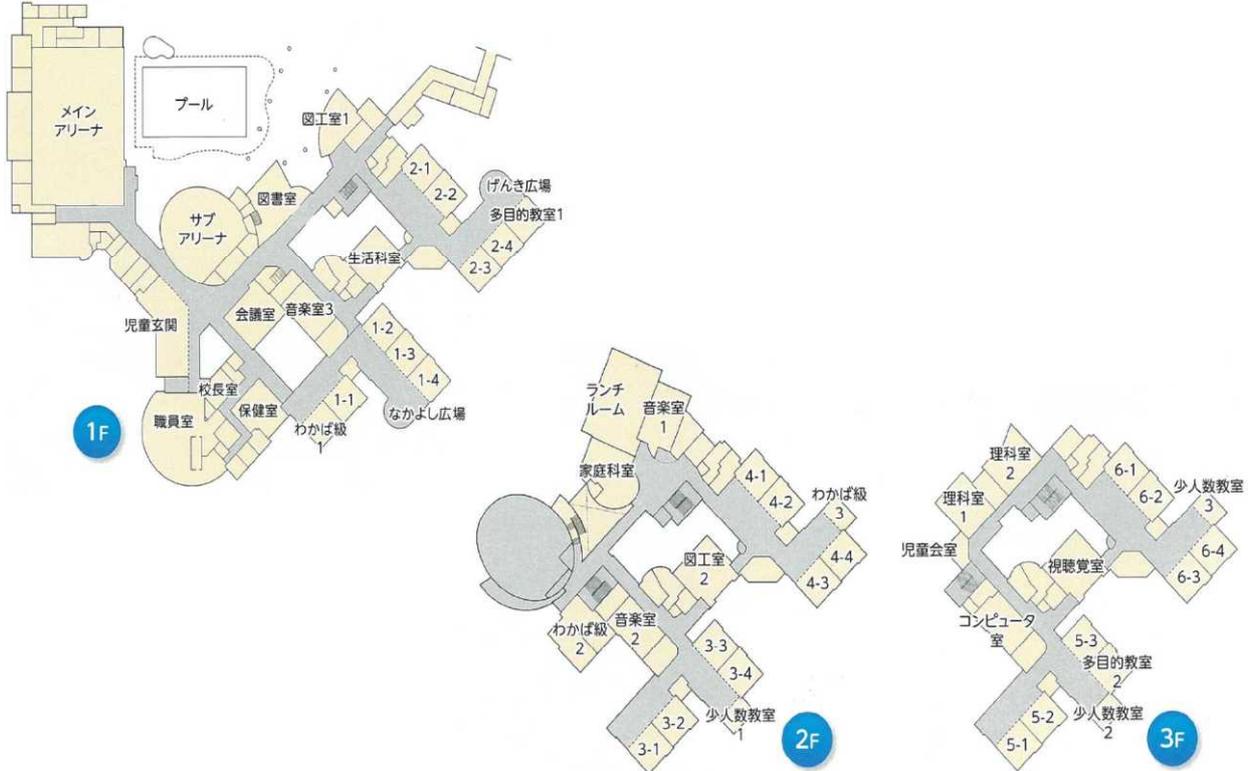
1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特別支援	計
4 学級	4 学級	4 学級	4 学級	3 学級	4 学級	3 学級	26 学級
136 名	115 名	132 名	126 名	115 名	125 名	14 名	763 名

職員数 (H30.4.2 現在)

校長	教頭	教諭 臨任講師含む	非常勤 講師	養護教諭	学校司 書・ALT	SC・SSW	その他 職員	計
1 名	1 名	37 名	2 名	2 名	各 1 名	3 名	10 名	58 名

敷地面積 38,590 m² / 延べ床面積 10,996 m² / 平成 21 年築
 構造・規模 RC造 3 階建 (校舎)、RC造 1 階建 (体育館) ほか

平面図



▲普通教室。扉はなく、大きくワークスペースに向かって開かれている。



▲低学年の教室群に付属する広場。ワークスペースよりも家庭的な雰囲気でも多目的に利用。



▲特別支援教室。

委員コメント

- ・ 建物の外観や内装に曲線を多く取り入れ、柔らかみを感じさせる構造である。
- ・ 大規模校であるが、全体的にスペースに余裕があり、廊下も広く開放的である。
- ・ 窓を大きくとるなど採光が最大限考慮され、校舎内全体が明るい雰囲気である。
- ・ 非常勤を含め50人以上の教職員がおり、職員室も大きい。採光や収納、配置の工夫がなされ、作業できるスペースや、ミーティングやリラックスできるエリアが複数確保され、多様な校務を行うことが可能となっている。
- ・ 3室ある相談室や「でん」など、一人一人の児童に寄り添った指導がしやすい環境である。
- ・ 掃除用具入れ、ゴミ箱が一体となった作り付けの家具や暖房機器を覆う棚が設置されており、教室がすっきりしている。
- ・ PTAや地域開放のための入口が複数あり、中庭、給食センター等へもアクセスが可能のため、施錠等管理に手間がかかると予想される。

施設計画/管理運営

- ・ 体育館や特別教室が複数あることや、「でん」等の施設計画や細部の施設の配慮によって、利便性が高い環境である。また蓄熱暖房のため、冬は朝でも寒くない。
- ・ パーティションが少ないため、隣の教室の音やインフルエンザ等への対応が難しい。



▲生活科室。多目的ルームのような利用をされている。



▲構内に点在する展示スペース。児童の作品などを展示。



▲昇降口の脇に配置された職員室。全体が外に面し、明るく広々とした空間。



▲職員室内には機材や教材を収納するためのスペースが十分にとられている。



▲職員室内にあるラウンジ。キッチンも設置されているため、リラックスした雰囲気での話ができる。



▲メインアリーナ。放課後や休日は学校開放を行っている。



▲サブアリーナ。クラス単位や学年単位の活動などに利用。アリーナが2つあることでカリキュラムを組みやすい。



▲ランチルーム。隣接する家庭科室、音楽室と一体的に使用可能。



▲家庭科室。地域住民の活用を見越した設備としている。

坂井市立丸岡南中学校（福井県坂井市）

中 公

学級編制（H30.9.1 現在）

1 年	2 年	3 年	特別支援学級	計
4 学級	4 学級	5 学級	2 学級 (5 名)	15 学級
115 名	124 名	148 名		387 名

職員数（H30.9.1 現在）

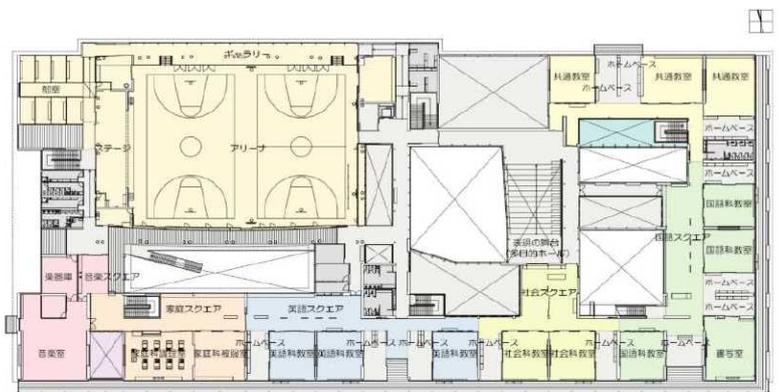
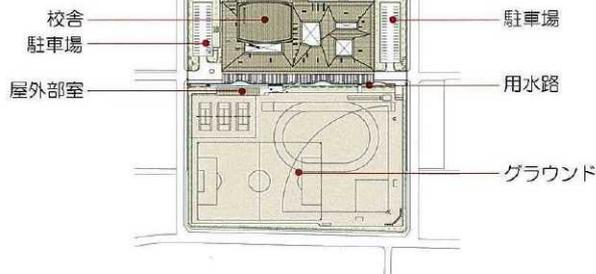
校長	教頭	教諭	養護教諭／S C	事務・講師	司書 ・ALT	相談員・支 援員等	校務員等	計
1 名	1 名	24 名	1 名／1 名	3 名	各 1 名	3 名	6 名	43 名

敷地面積 37,181 m²／延べ床面積 10,070 m²／平成 18 年築

構造・規模 R C 造（一部 S 造）地上 2 階建

平面図／配置図

配置図



▲ 数学科教室。黒板としても利用可能な可動式の扉を設置。



▲ 国語科教室。大きく扉を開けて利用することができる。



▲ 理科実験室。壁部分は実験器具などを展示できるようになっている。

委員コメント

- ・ 周囲は田畑に囲まれており、斬新なデザインがひととき目立つ。校地に防球フェンス以外の塀はなく、用水路もあり地域との連携を意識した外構になっている。
- ・ 図書室が昇降口の近くにあり、朝読書に読む選書や室内の掲示も含めて、生徒が図書に触れやすい環境を作っている。
- ・ 教科教室型校舎で、各教科 2～3 教室程度の専用室を有している。生徒は、ホームベースにロッカーがあり、ホームルーム等は指定の教科教室を兼用する。その際、意図的に異学年が隣同士となる配置としており、教員も複数学年を縦持ちする（縦持ちは、福井県では一般的とのこと）。

施設計画／管理運営

- ・ 教科センター方式は生徒の自主的な学習や学力向上に役立っている。
- ・ 多目的ホールは学年集会をはじめ研究会、部活動など様々な活動に使い勝手が良い。
- ・ 10 年以上経過してくると交換等が必要な機器や設備があるが、特殊なものだと費用がかかったり、高所に設置してあると交換するために業者への依頼が必要だったりするので、設計の段階で十分検討することが必要。



▲ 各教室の間に設けられたホームベース。生徒のロッカーとベンチやテーブルが置かれている。



▲ 各教科教室の脇にメディアセンターと呼ばれる教員のためのスペース。担当教員によって多様な空間づくりがなされている。



▲ メディアセンターには学習スペースが設けられることもあり、授業時間外に生徒の質問を受ける場所としても利用されている。



▲ 学校の中央部に位置する図書館。中庭に面し、明るく気持ちの良い空間。



▲ 全校生徒・全教員が集まって昼食をとることができるランチルーム。



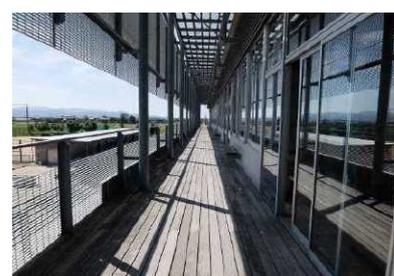
▲ 多目的ホール。大階段が 2 階へとつながる。



▲ 職員室。昇降口に隣接し、受付や打合せスペースが設けられている。



▲ 学校の中央部にある中庭。このほか 3 つの中庭があり、校内の採光・通風が確保されるとともに、生徒の憩いの場所となっている。



▲ 直線距離約 130m にもなる 2 階のテラス。庇があることで積雪時も雪が入り込まない。